

かぐや (SELENE) 観測データの可視化について

A study of KAGUYA(SELENE) product visualization on WMS

祖父江 真一 [1]; # 奥村 隼人 [2]; 山本 彩 [3]
Shinichi Sobue[1]; # Hayato Okumura[2]; Aya Yamamoto[3]

[1] 宇宙機構; [2] JAXA/ISAS/SELENE; [3] レステック
[1] JAXA; [2] JAXA/ISAS/SELENE; [3] RESTEC

<http://www.kaguya.jaxa.jp/>

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) は、2007年9月14日に、H-A 13号機によって月周回衛星「かぐや」(SELENE: SELEnological and ENgineering Explorer) を打ち上げ、10月4日に月周回軌道に投入し初期機能確認を実施したのち、12月21日から定常運用を行っている。

「かぐや」は、21世紀の世界的な月探査時代の幕明けを担う月探査機であり、主衛星と2機の子衛星(リレー衛星「おきな」とVRAD衛星「おうな」)から構成されている。この「かぐや」から得られる観測データを、JAXA 相模原キャンパスのSOAC(SELENE ミッション運用・解析センター)においてアーカイブし、機器チームによるデータの校正・検証および解析研究に供せられている。

SELENEプロジェクトではこのシステムから得られるL2プロダクト等を使って、データを可視化する方式の検討を行ってきた。あわせて、OpenGISのWeb Map serverなどを用い、可視化した画像を月の回転楕円体に貼り付け、3次元ビューワーにより表示する検討もSELENEプロジェクトでは実施してきた。本稿では、「かぐや」から得られた月観測データをWMSに掲載した作業状況と今後の計画について報告する。